

「言^{こと}霊と音^{おと}霊の夜会 -第二章-

昨年は奈良1300年祭を祝い、期間中のライトアップイベントとして、春日大社のご協力で「秋の万燈籠」とあわせて、春日大社 神苑 萬葉植物園内の浮舞台で美しい日本の童謡や唱歌、そして万葉集などの歌を奏でる「言霊と音霊の夜会 第一章」を実施させて頂きました。

自然の中で私たちも共存していること、そして、人々の幸せを祈るメッセージや歌に、予定来場者数を大きく超え約1000人が、春日大社神苑にコダマする秋夕の音と共に耳を澄ませていただきました。

お借りする場所では、過剰な照明設備や客席設置などは控え、謙虚な気持ちで人間はそこに「少し一緒に身を寄せる」をコンセプトに舞台や会場を演出。

今回は、奈良国立博物館から特別に仏教美術資料研究センターのお庭をお借りして、第二章の開催となります。

ご出演を頂くのは、元NHKアナウンサーの宮田修さんです。

平成7年1月17日に発生した阪神・淡路大震災で、その発生直後から冷静かつ的確な報道に当たり、視聴者に大きな安心と感動を与えた方です。今日なお「阪神大震災の第一報を伝えたアナウンサー」と、多くの人々の記憶に留まっています。

今年は3月11日に発生した東日本大震災で多くの方の命が失われました。あまりにも広範囲にわたる大きな被害から復興への道のりは陰しく長期にわたる支援が必要だと考えております。

「言霊と音霊の夜会」は、これからも継続して犠牲になられた方の慰霊と被災地の復興を「奈良」から祈り続ける計画をしています。

また、奈良県にも甚大な被害をもたらした台風12号で犠牲となられた方の追善と合わせて、「言霊と音霊の夜会」第二章は、亡くなられた方のご冥福、被災者の方々のご健康、心の平穏を願い、他人事と考えず「生きとし生けるものすべての幸せを願う」内容でコンサートをお届けします。



【昨年の言霊と音霊の夜会の様子】

【昨年、ブログやYouTubeに寄せられていたコメント】

エコブームの原点は足元から聞こえる虫の音色にあったのか……。いやいや、理屈以前に、この心地よさを大事にしたいですね。これは感受性ともいえるのでは。直に感じ取ることです。大変素晴らしいコンサートでした。

雲間に切れて月夜の中、朗々とソプラノの歌声が響いて、お庭はもう真っ暗だったけど、涼しくはじめての経験で、不思議な静寂の中で聴いていた。歌ってる方も気持ちいいだろうなあーと思って♪暗闇に浮かぶ灯りに、息子は気持ちいいなあーと繰り返していた。来てよかった。出かけると、何か、心が弾むね～

『言霊』の人

みやた おさむ
宮田 修



【活動】

旭川・神戸・福島局では報道・スポーツアナウンサーとして活躍。

原辰徳さんや江川卓さんが高校生の頃、甲子園球場で実況担当。

岡山局ではアナウンスデスクとして後進の指導にあたるともに、テレビ・ラジオの地域放送を開発し、数々の実績を挙げる。その後、広島局・東京本部・大阪局では、ニュースアナウンサー一筋に仕事を積み重ね報道のキーパーソンとして活躍した。

特に、平成7年1月17日（火）早朝に発生した阪神・淡路大震災では、その発生直後から冷静かつ的確な報道に当たり、視聴者に大きな安心と感動を与えた。

今日なお「阪神大震災の第一報を伝えたアナウンサー」と、多くの人々の記憶に留まっている。「震災」のあとその実績を評価され、東京本部に異動し、「ニュース7」の土・日・祝のキャスターとして重責を果たした。平成12年に老神職から後継者になってほしいとの要請を受け、神職資格を取得。千葉県熊野神社の宮司として奉仕している。その過程で、戦後教育を受けた一人として、ほとんど知らなかった「日本」を発見したという。NHK退職後はセレモアつくば業務執行役員として広報を担当。「親しみやすい話し方」や「コミュニケーションのとり方」について講演活動している。

【略歴】

昭和22年千葉県生まれ。埼玉大学教育学部卒業後、45年NHK入局。

初任地は旭川局で、その後神戸、岡山、東京、大阪などを経て

エグゼクティブアナウンサー（特別職）となり、平成20年に退職。

14年に神職の資格をとり、千葉県長南町熊野神社の宮司に就任した。

『音霊』の人

やまもと まさ

よ
山本昌代



【活動】

卒業演奏会、奈良県新人演奏会、毎日新聞社主催「若い音楽家たちの飛翔」他
いずみホール、ザ・フェニックスホール、石原ホールなど関西を中心に多数の演奏
会に出演。オペラでは「フィガロの結婚」スザンナ、「泣いた赤鬼」妖精、「英雄
たちのクライマックス」卑弥呼、他「ラ・ボエーム」「ラ・トラヴィアータ」他に
出演。2006年、2007年、ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブルオーケスト
ラ奈良特別公演にてフォーレ、モーツアルトの「レクイエム」でソプラノソロを務
める。またモーツアルト室内管弦楽団とモーツアルトのミサ等で共演
2006年秋篠音楽堂にてリサイタル。2009年大和高田さざんかホールにてホール共催
によるリサイタル。2010年ザ・フェニックスホールにてリサイタルを開催。
2000年より「LA PARTENZA（ラパルテンツァ）」を主催。コンサート企画や、声
楽、ヴォイストレーニングを中心とした指導を行っている

【略歴】

大阪芸術大学芸術学部音楽学科卒業。卒業時「学長賞」を受賞。同大学院修了。

伊 سانت・マルゲリータ国際オペラセミナーマスタークラス修了。

ブルージュ市立コンセルヴァトワール夏季セミナー・マスタークラス修了。

独シュタインフェルト夏季セミナー・マスタークラス修了。

榛名梅の里日本歌曲セミナーマスタークラス修了。

日本演奏連盟会員

堺シティオペラ会員

奈良県音楽芸術協会特別会員

仏教美術資料研究センターについて

重要文化財に指定されている建物は、明治35年(1902)竣工、同年奈良県物産陳列所として開館し、県下の殖産興業と物産の展示販売をおこなう施設として利用されました。

設計者は、建築史学者で当時奈良県技師として古社寺保存修理事業に尽力した関野貞(せきのただし)(1867-1935)です。

木造棧瓦葺(さんがわらぶき)で、小屋組(こやぐみ)や壁などに西洋建築の技術を取り入れつつ、外観は和風を基調としています。正面に唐破風造(からはぶづくり)の車寄(くるまよせ)をつけた入母屋造(いりもやづくり)の中央楼(ちゅうおうろう)から、東西に翼部(よくぶ)を延ばし、その先に宝形造(ほうぎょうづくり)の楼(ろう)をおいており、その左右対称の優美な姿は、宇治の平等院鳳凰堂を彷彿させます。細部に割束(わりづか)、臺股(かえるまた)、虹梁(こうりょう)、舟肘木(ふなひじき)など、飛鳥時代から鎌倉時代にかけての伝統的な建築様式を取り入れる一方、窓にはイスラム風の意匠もみられ、構造・意匠に東西の要素を巧みに取り入れた明治中期を代表する近代和風建築として高く評価されています。

この建物は開館後、奈良県商品陳列所、奈良県商工館と名称を変え、昭和26年(1951)に国に移管されて、昭和27年(1952)から55年(1980)までの間、奈良国立文化財研究所春日野庁舎として利用されました。その後、昭和58年(1983)1月7日に重要文化財の指定を受け、同年奈良国立博物館が管理するところとなりました。

現在は、国立博物館の仏教美術資料研究センター(平成元年開館)として活用されています。

普段はお入り頂けない貴重なお庭です。(なお、当日も建物の中にはお入り頂けません。)
仏教美術資料研究センターの前庭で行われる格別な夜を、お楽しみください。



【仏教美術資料研究センター】